

第 79 期第 2 回ダイバーシティ推進委員会議事録

日 時： 2023 年 9 月 27 日（水） 10：00～12：00

場 所： オンライン会議（Zoom）

（敬称略）

出席：

小林夏野（委員長）、石原安野、大畠悟郎、斉藤準、田島節子、成木恵、濱口幸一、服部梓、板倉明子（11:00～）、市川温子、門信一郎、中本有紀、野中千穂（事務局）見供、佐藤（託児室議題まで）、宮野

欠席：

山本文子（副委員長）、板橋健太、岩崎昌子、所裕子、野尻美保子、肥山詠美子、溝川貴司、山本貴博

【議題】

<実施、参加報告>

1. 物理応物連絡会（2023/7/10-14 The 8th International Conference on Women in Physics (ICWIP) [オンライン]参加報告）

資料に沿って野中オブザーバーより報告がされた。

バーチャル会場でのオンライン開催。インド事務局が調整しており時差が 4 時間あった。68 か国、495 名、うち学生 85 名の参加があり、ワークショップ 5 件、プレナリー 4 セッションが行われた。日本からは、応用物理学会から 3 名 物理学会から 6 名の計 9 名で参加をし、手分けしてワークショップ、セッションに参加、報告書を作成した。

プレナリーはオンライン会議の雰囲気が進められた。ポスターセッションは FRAME というアプリを使用して行われた。優秀なアプリではあるが、慣れるまで時間を要した。ダイバーシティ関係のセッションは残念ながらあまり人がいなかった。

また、参加した小林委員長、田島委員からも以下の通り報告がされ、意見交換がされた。

小林委員長（ワークショップに参加）

本ワークショップの参加者は年配の方が多かった。物理へのアクセスがない方への接触をどうするかというテーマで、他国の活動や意見を聞き IUPAP での取り組みの経緯などを広報できる場があるとよいかと感じた。学会誌に今回の活動をまとめて載せるなどもよいのではないか。

→委員会のホームページに活動報告などを載せているので、その窓口を設けている現状

でよいように思う。

田島委員（AAPPS WIP セッションに参加）

AAPPS WIP WG の vice chair として参加。以前はこのセッションの枠が用意されていたが、インド事務局に問い合わせたところ今回は用意がなく、開催可能時間枠を提示してもらって急遽開催が決まった。インドの方の参加が多かった。

主に今後の AAPPS の活動について話し合った。活動が活発な division からあった問い合わせをもとに、invited speaker の女性比率などのルール制定について検討した。

- ・ 国際会議では最低でも 30%、目標半々などを目にする。国内の会議でも invited speaker の女性比率目標を提言するのがよいのではないか。
- ・ ジェネラルにはいいことだが、女性が少ないため、女性研究者の負担が増える結果になる。一律の人数ではなく、現在の研究者の女性比率を鑑みた目標値を設定する、旅費を補助する、などにしないと、現在の女性研究者が苦しくなる。
- ・ 旗印を掲げるのは意識を持つという意味で大事。30%は厳しくても 10%など数値で掲げておくことが人を選ぶ際に女性を入れようという考えを持ってもらえる効果があると思う。
- ・ 効果的なアプローチを考えた場合、「これだけ入れるようにしなさい」というメッセージと、「あなたの分野は 0%ですよ」と見せるのではどちらが効果的なのか。
- ・ IUPAP はご褒美をあげますよという制度を設けていて、それも効果的。
- ・ 常に女性の invited speaker がいることで、若手の男性も「女性がいるもの」という認識が自然とできていくと思う。
- ・ 自分は国内会議でも、invited speaker を選定する際、常に女性比率を考えているが、それが一般的ではない？
- ・ 関わっているコミュニティでは、気付くと世話人、講演者共に男性ばかりという状況はまだある。
- ・ 国際会議や大きな会議では女性を入れているところも増えてきたが、ポリティカルなコミュニティは男の人ばかりになりがちだと感じる。

2. 女子中高生夏の学校 (2023/8/5-7 [国立女性教育会館]参加報告)

運営側の報告については、夏学事務局からの報告書がこれから届くので、次回委員会で報告することが中本オブザーバーより伝えられた。

※後日、夏学事務局から報告書が提出され、本委員会にメールにて回覧、確認がされた。

実験、ポスターの参加報告については、服部委員による会誌掲載用の報告書が現在校閲中であり詳細はそちらを参照することとなった。加えて、参加委員より、当日の様子が以下の通り報告された。

門委員

数年ぶりの対面で活気のある開催が戻ってきた。コロナ前よりも生徒さんが落ち着いた雰囲気の影響だった。

斉藤委員

実験実習には7名の生徒が参加した。音の信号をLEDに受けて太陽電池に流すという実験だったが、アンケートでは全員が「良かった」という回答だった。ポスターは10名前後来てくれた。

3. 第78回年次大会(2023年)インフォーマルミーティング報告(2023/9/17[東北大川内キャンパス]「留学生、外国人研究者にとって居心地のいい物理学会とは」12:30-13:30)

田島委員より以下の通り報告がされ、意見交換が行われた。インフォーマルミーティングの議事録を後ほど委員に送付し、委員任意で領域メールなどで広報することとなった。報告、意見交換の内容は以下の通り。

参加者55名で、用意したお弁当30個は全て配布できた。日本人、外国人半々くらいの印象だった。ご意見や、よくぞやってくれたという感想がメールで複数届いた。参加できなかったにも関わらず、意見だけでもと送ってくださった方もいた。

長谷川会長のお話では、日本語が分からない会員2%、女性会員6%とのことで、日本語が分からない会員も無視できない数字である。

大会について、発表はしたけれど質問も出ず、日本語の他の情報は分からないため、4日間いる意味がないという意見があり、アンケートでは「二度と参加しない」という強い意見もあった。スライドを英語にしてもらえると8割くらいは理解できるという意見もあったので、スライドの英語化はもう少し理事会から推奨すると良いのではないかと感じた。参加した外国人会員によると、全体の3割くらいが英語スライドになっている印象とのこと。領域によっては8割程度英語スライドになっている領域もある。言葉も英語にすることはハードルが高いということは、外国人会員も理解している。概要集を日本語と英語の併用にすることは可能ではないだろうか。

理事会企画ではあるが、委員会としてサポートをしたので提言をしてもよいと思う。

- ・ スライドを英語化したところ、細かい部分が伝わりづらく断念した経験がある。英語化はみんなで一斉にやらないと難しい。気軽に配信ができる領域メールなどを活用して英語化の呼びかけをしていくのがよい。
- ・ 全会員が領域に所属しているわけではないという問題点はあるが、良い方法。領域メールで何度も呼びかけてスライドの英語化が進んでいる領域もある。

- ・ スライドは英語、言葉は日本語だと伝わりにくい。完全英語セッション、日本語セッションという方法もあるのかなと思う。
- ・ その要望も出たが、英語セッションの人数に達しない分野もあるという声があった。
- ・ スライドは英語、言葉は日本語というスタイルは、慣れると問題なく聞けるようになる。
- ・ 所属している分野では、学会は若手が母国語で積極的に発表する場であるので日本語で、という方針になっている。そういう領域もある。
- ・ 自分の研究室で外国人がいたらどうするかと考えていただけるとよいのではないか。外国人会員が疎外された状態にならなければよい。完全英語化の必要はなく、少しの配慮でも彼らの置かれる状況は大きく変わるのではないだろうか。

4. 第78回年次大会（2023年）託児室報告（2023/9/16-19 [東北大川内キャンパス、青葉山キャンパス]実施報告）

資料に沿って大島委員より報告がされた。また、本業務に関する今後の委員会の役割について議論がされ、理事会に、託児室を委員会の仕事から外す提案をし、併せて、実施報告は今後も委員会宛に送付してもらえよう依頼することとなった。

各キャンパスで会期中最大

川内 6家族8名

青葉山 2家族2名

の利用があり、問題なく運営された。

昨年の2022年秋季大会では2家族3名の利用だったので、大幅に利用が増えた。一方で大会期間中に託児室を設置していることをよく理解していない参加者もいた。

→託児室についてできる範囲での周知はしていると思う。

託児室について本委員会で担当する必要はないのではないか。

- ・ 現状、本委員会は託児業者選定の承認と実施報告を受けるのが主な仕事である。業者とのやり取り等の実務は主に事務局の大会担当職員が行っており、本委員会が担当しなくなっても大会実行委員、大会担当職員の実質的な負担は増えないと思われる。
- ・ 本委員会として、ニーズの情報等は必要なので、引き続き実施報告を受けられる体制は保持したい。
- ・ 理事会に、託児室を委員会の仕事から外す提案をする。併せて、実施報告は委員会宛に今後も送付してもらえよう依頼する。

<進捗報告>

5. 学協会連絡会（シンポジウム2023/10/14[東京大学]参加準備進捗報告）

アブストラクトは斉藤委員が作成、提出済みであり、ポスターは成木委員が制作中、当日

は浜口委員が貼り出しをする予定であることが小林委員長より報告された。

<検討>

6. 2024 予算案

案に沿って事務局より説明がされた。国際会議に関わる費用については、2024 年開催予定の国際会議の有無を再度確認することとなった。

7. ランチョンミーティング

(次回開催について 2024 年 3 月大会でのオンライン開催とするか、2024 年 9 月大会での対面開催とするか検討)

担当委員が欠席のため、資料に沿って担当の山本貴博委員、岩崎委員の意見が確認され、次回開催について検討がされた。

留学生を対象としたランチョンミーティングについては、広報が直前になったこと、会場が 2 つに分かれていたことから、興味があるものの参加できなかった方もいたと考えられる。理事会企画ではあるが、委員会として留学生の意見を吸い上げる提案をし、開催サポートもしたため、もう一度だけ、実施を提案、サポートすることとする。本件については、田島委員が中心となって対応し、オンライン開催の 2024 年春季大会で実施する。

本委員会企画のランチョンミーティングについては、2024 年 9 月対面開催の第 79 回年次大会（2024 年）で実施することとなった。トピックとして、スライド英語化のメリット、デメリットをテーマに反対派、賛成派を招いてデモンストレーションを行うという案が出された。トピック、講演者は随時メールで担当委員に提案する。

8. その他

理事会からの「委員会の委員選任に関するガイドライン」を確認した。

<配布資料>

資料 1-1_2023_ICWIP_report

資料 4-1_託児室開設報告書_第 78 回年次大会（2023 年）

資料 6-1_2024 予算(案)

資料 7-1_ランチョンミーティング検討

資料 8-1_委員会の委員選任に関するガイドライン